

# 「微力だけど、無力じゃない」 「ひとかけらを、ひとつなぎに」

今回の活動も、あなたに支えられて、少しずつ広がっていき、共に歩む仲間が生まれて、未来を紡ぐ子ども達に教育の機会を届けることができました。

あなたと共に、歩められていることに、感謝を込めて。



## 「小さな力を集めて、大きな力に」

今回、幼稚園の閉鎖を止めることができ、ひょっとしたら「世界を変える」ような未来の変化を起こせたのかもしれませんが、僕の力では決してなく、皆さん一人ひとりと共にできたことです。今の活動の原動力となった、シリアの村の少女から「あなたのおかげで夢を持てたよ」という言葉を、

皆さんとこれからも共有できるような活動にしていければ嬉しいです。また、僕も先日、結婚式をしましたが、シリアからこの少女の結婚式の写真も送られてきました。そんな「当たり前の生活」を当たり前遅れる幸せを、シリアの人たちが送れるよう願って、これからもしっかりと活動をしていきます。

Piece of Syriaスタッフ 中野 貴行



## 「シリア人の優しさを知ってほしい」

シリア内戦の悲惨さや危険さだけでなく、かつてのシリアの美しさや人々の優しさを知ってほしいというのが私たちピースオブシリアメンバーの想いです。「かわいそう」と同情するだけでなく、自分ごとと捉えることで、彼らから学べることはたくさんあります。私たちが彼らから戦況は厳しい状態

が続きますが、シリアが平和を取り戻し、人々がかつてのような豊かな生活を送れるように、できる限りの支援を続けていきます。

Piece of Syriaスタッフ 武田 祐輔

### Special Thanks

【スタッフ】小林 郁乃、武田 祐輔、中野 貴行

【イベントスタッフ】小林 正和、北山 マキ子

【後援】アラビア料理レストラン「月の砂漠」、BAR & Guest House「MONDO」、フェアトレード雑貨 & レストラン「みんなる」、オリエンタルアクセサリー&アラビアン雑貨「CHAKA」

【Special Thanks】陣崎 草子(チラシデザイン)、高山 社(シャツ/バッグ デザイン)、

「シリアの情景」管理人、加藤 璃空

And all of you...



Piece of Syria

検索

<http://piece-of-syria.org>

[piece.of.syria@gmail.com](mailto:piece.of.syria@gmail.com)

活動報告書  
2018年3月

# شكراً

ありがとう。

あなたのおかげで、  
私は今、学校に行くことができます。



## 日本の支援者の皆様へ

私はシリアの現地NGO【A Little Help is enough】代表のウサマ・アッジャンです。皆様の多大なるご支援に、心から感謝をしております。現地の先生や子ども達から、以下のような感謝の言葉が届いております。



### Usama Ajjan

元英語教師で、アレppo大学 英語学科卒業。在学中、日本語を学ぶ。卒業後、小中高それぞれの学校で英語教師として働く。現在はトルコに住みながら、シリア国内の教育支援を行なう【A Little Help is Enough】代表を勤める。大きな団体からの支援もなく、時に私財を投げ打って活動する姿に感銘を受け、Piece of Syriaとして協力関係を結ぶ。

すごく助けになりました！おかげで、学校を続けることができている。この感謝に応える形で、精一杯、学校をよくしていきたいと思っています。



破壊された学校の修復ができました。学校に明かりが灯りました。安全な場所で学ぶことができ、心が開かれたような気持ちです。



みなさんのおかげで、温かい教室で勉強できるようになりました！寒い中ではとても大変だったから、すごく嬉しいです！



子ども達の筆記用具や教科書、そして、私たち先生が授業に使う道具が揃えられました。優秀な子ども達を表彰する報奨金を渡して意欲を高めたり、また、無給で働いていた私たちに、報酬を頂くことができたので、これで先生の仕事を続けられます。



私たちの未来に、是非これからも関心を持っていただければ嬉しく思います。

そして、どうか、今後ご寄付を継続していただければ幸いです。

私たちは「Piece of Syria」という素晴らしいチームの大きな努力を決して忘れません。彼ら、そして皆さんと共に、未来を創り続けたいと願います。





## シリア国内への教育支援

### 幼稚園の閉鎖を食い止め、未来を紡ぐ

シリア北部、3~7歳が通う、100人規模の幼稚園。3クラスで、スタッフは8人。

徐々に、シリア国内に国連などが支援に入ってきてはいますが、対象は小中高のみで、幼稚園は入っていません。そのため、この園には、どこからもお金が全く入ってこない状況で、先生達の給料が支払われておらず、先生が去ってしまう可能性があります。しかも、一度、閉鎖してしまえば、再開するのが難しい状況でしたが、皆さんのおかげで、無事に閉鎖を食い止め、子ども達が安心して学ぶ場所を守ることができました！



## 2,030\$

家賃、筆記用具、修繕費、防寒具、ストーブ、ストーブの燃料



| Place        | Item                                       | Price          |
|--------------|--|----------------|
| Idlib        | Financial Grants for volunteering teachers | \$2,800        |
| Aleppo       | Electricity generator                      | \$200          |
| Kindergarten | Stationery for students                    | \$480          |
| Kindergarten | Student Competition Rewards                | \$300          |
| Kindergarten | Rewards for teachers                       | \$400          |
| Kindergarten | Rent                                       | \$150          |
| Kindergarten | Wool knitting - wool tweezers              | \$298          |
| Kindergarten | School repairs / maintenance               | \$25           |
| disabilities | Gifts for students for party               | \$100          |
| disabilities | boards                                     | \$120          |
| disabilities | Heaters and fuel                           | \$750          |
| Kindergarten | Barrel of oil                              | \$800          |
| Idlib        | maintenance                                | \$200          |
|              | <b>Total</b>                               | <b>\$6,200</b> |



### 戦火で止まっていた学校を再開

6~15歳が通う。400人規模の学校。  
イドリブ県の武力紛争が激しくなったため、一時期、運営がストップしていましたが、情勢が落ち着いてから学校を再開させています。



## 3,630\$

無償で働く先生達のお給料(50\$×8人×7ヶ月分)

### どこからも支援がない障がい児学校を開始

6~15歳の障がいを持った子ども達が通う学校。75人規模。  
スタッフは6人。新たに始めた事業で、どこからも支援がない状況にありました。学校を維持・運営するための一部をサポートしました。



## 970\$

ストーブ、パーティー、ホワイトボード

### アレッポの学校

6~15歳が通う、洞窟内にある学校(空爆の被害を避けるため)



## 200\$

ジェネレーター

今回も、100人を超える方々に  
ご支援いただきました！

## ご寄付総額 110万円

現地活動費 75万円(6200\$)

BASE使用料 10万円

リターン経費 25万円

## スタッフからのメッセージ

### 出逢ったのは「難民」ではなく、 優しい「友人」でした。

Piece of Syriaスタッフ  
小林郁乃

Piece of Syriaが動き出してすぐ  
スタッフとして活動に参加。2017年  
夏にトルコでウサマさんを訪問し、  
大阪で初めての報告会「未経験から  
のシリア支援」を行なう。

2017年6月、現地協力者のウサマさん  
やシリア人の方に会いにトルコへ行き、  
8月に報告会をさせて頂きました。

### ● 不安が吹き飛んだ、初めての中東

Piece of Syriaの活動を始める前、私はシリアと全く縁も所縁もなく、世界の中の国の1つとして聞いたことがある程度で、どこにあるのかもはっきり言えませんでした。「シリア支援の活動をしているのにシリアを知らない…」そんな劣等感のようなものを感じたこともありました。縁があって活動に関わるようになり、トルコに行くことになった際は「初めての中東付近への旅」は、どうしても自分の中にある今までの中東へのイメージがちらつき、多少の不安もありました。

しかし、トルコに住むシリアの方々と、実際に一緒に過ごし接していくと、今まで不安に思っていたこと、劣等感などを一瞬で拭い去ってくれる温かさや優しさや面白さに一瞬で虜になりました！

来る前に想像していた「難民だからかわいそう、助けてあげないと」なんて思いは感じることなく、来てみないと分からない体験をした10日間でした。

### ● 当たり前を取り戻すために



私が出会ったシリアの人たちは、普通の女の子で青年で仲の良い家族で、働いていたり学校に通っていたり、和気あいあいとご飯を食べて笑いあっていました。私たちとなら変わらないんだ、ただそんな人たちが急に環境が変わる状態におちいつってしまっただけです。

ということは、私にもいつそんな状況がきてもおかしくないんじゃないかと、ふと思いました。当たり前のことが当たり前ができる私たちの今の状況や環境の大切さを再認識しました。

そんな当たり前の環境を作っている活動ができるよう、シリアで暮らす子ども達への教育支援を皆さんと共に、作っているよう、活動を継続していきます。

### ● 私だから伝えられること、できることがある

私にとって初めての報告会。多くの方が温かく真剣に話を聞いてくださり、本番を迎えるまでに抱えていた緊張と不安を感じることは微塵もありませんでした！人前で話したことなく台本丸読みの卒業論文発表の時以来でしたが、「シリアの方の素晴らしい」「当たり前がいかにか大切なのか」私が実際に感じたことを知ってほしい、伝えたい…その想いだけで夢中に話し終えた後、参加者の方からは今日聞けて良かった、泣きそうになった、ちゃんと想いが伝わってきたなど本当に嬉しいお言葉を頂きました。

これからも、今までシリアと関わりのない方たちへ、私だから伝えられる想いをもお伝えてしていけたらなと思っています。

小林郁乃

## 今後の活動について

今後も継続して、ウサマさんの支援する学校へのサポートと、  
日本国内での平和教育活動を続けていきます。

### 現地での活動を継続的にサポート

2011年から始まり、様々な勢力によって複雑に入り組んだシリア騒乱ですが、やや落ち着きつつある状況にあります。しかしなお、混乱は続いており、支援がない状態で運営をしている学校・幼稚園があります。Usamaさんと共に、そうした教育機関への支援を今後も継続していきます。



### 1000円=1ヶ月の教育機会



1000円で、先生の給料・子ども達の勉強道具の1ヶ月分に相当します。そして、子どもたちは学校に通えなくなり、3年以上の月日が経つと、学校に行くことを嫌うようになってしまうそうです。シリアの平和のため、復興のための主役となる次世代の子供達が、「スキマの世代」とならないために、継続的な支援を行なっていきます。

### シリアから学ぶ平和の大切さ



「シリアが元々、どれほど豊かな国だったのか、戦争の前も後も、どんな素晴らしい人間性の持った人々なのかを伝えることで、平和の大切さについて気付くきっかけになってほしい。」

その想いを発信するために、講演・写真展・動画作成などを行なって参りました。この活動も継続していきます。あなたの住む場所でも、企画したいのをご希望がありましたら、是非ご連絡のほど宜しくお願い致します。

UAEに駐在をしていた代表の中野が2018年4月より日本に帰国し、積極的に活動をして行きます。ご依頼、お待ちしております。